

< 今日の説教のポイント テモテへの手紙 I 5章17～25節 >
今も変わらない教会の開始時の様子 — 信仰的思索の手掛かり多数。

1 (17-18) 牧師への報酬（「大事にする」5:3の名詞形）の開始理由。

牧師として就いたテモテのことを考えています(4:11-13)。初代教会は牧師に報酬を払い始めた教会でもあり、その理由が旧新約聖書に基づいて述べられています(申命記 25:4、ルカ 10:7)。また、「報酬」という語が 5:3 の「やもめを大事にする」の名詞形であることも、記された位置から考えておく必要があるでしょう。

2 (19-22) 問題長老への対処の心得 — 神の前に潔白な仕方で。

「よく指導している長老たち」(17)とは逆の「反対する訴え」が出される長老(19)への対処の仕方が記されています。その内容は厳しくもあり(20)、同時に、神を恐れながら(21, 22b)先入観(「偏見」「えこひいき」の原意)を持たずに事実確認を行いなさいと言われていています。「性急に(軽々しく:口語・協会訳)誰にでも手を置いてはなりません」(22a)は、長老就任または解除の按手礼のことと考えられています。パウロは、「裁かれる者、裁く者、どちらも神様に恐れを持って」と呼びかけているように思います。

3 (23) ぶどう酒の勧め — テモテへの勧めであることを考えると。

なぜこんなことが急に語られたのか、興味は尽きません。当時の水の汚染、テモテは断食をしていた、あるいは、22 節の「潔白: 自分自身を汚れないよう維持しなさい」に付け加えて等。しかし確かなことが一つ。信仰者の絶対禁酒は勧めていないということです。酒に飲まれ、健康を害するまで飲んではいけないことは当然ですが。

4 (24-25) 「罪、良い行い」が主語 — 神は見ておられる。ルカ 12:3。

「罪」と「良い行い」が主語であり、人間が隠そうとしてもそれらが先行する(たちまち裁かれる)、を意味する表現が独特です。パウロがこの個所全体を貫いて伝えようとしていたことを考えさせられます。それは「神様は見ておられる」ということです。罪や良い行いが人に知られないように思われる時もある、しかし、必ず「後になって明らかになる」(24)、「隠れたままのことはない」(25)、パウロがこうしっかり最後に押さえている点に注目です。このことを信じて生きら